

## おこづかいについて

みなさんのご家庭では、お子さんが小学生になって、おこづかいをあげるかどうか、あげるとしたらいつからがよいかと迷われたことはないでしょうか。最近、いわゆる「金銭感覚」を小さいときから発達段階に応じて教えていくことが大切だと言われています。

小学生のうちに理解させたいことは、「お金には限りがあること」「お金をめぐる社会の仕組み」「お金の使い方についての意思決定」だと思います。

自分の親が働いて得たお金の大切さは、小学生であれば理解できるはずですが、こどもが交通系電子マネーを使って自動販売機でジュースを買うことができる現代では、お金の有限性を理解しにくいのが現状です。ですから、低学年のうちにお金の意味を丁寧に具体的に教えてあげる必要があるでしょう。

また、スーパーや商店に並ぶ品物の裏側には、多くの人の努力や知恵があり、生産者と消費者をつなぐ大きな社会の仕組みがあることにも気づかせたいものです。高学年に対しては、安価な商品における目には見えない過酷な仕組みの存在などの社会問題も理解させたいものです。消費者としてどのように行動することがよいのかを考え、判断する力をつけさせていくことも大切だと思います。

さらに、欲しいものを買うか我慢するかを考えたり、計画的な貯金ができるかなどの自制心を育てたり、家族や友達への誕生日プレゼントを買ったり、募金を試みたりなどの、人のためにお金を使う意味や喜びを味わったりすることも大切な経験となるでしょう。

おこづかいをあげるかどうかはご家庭の判断によりますが、お金について話し合う機会は、ぜひ持っていただきたいと思います。